

タイトル：『汐製菓会社の新作12
マシユマロ3』

キャスト

- ・ 汐（30代）：汐製菓会社の社長。「面白きことも無き世を面白く」をモットーに、次々と奇抜な菓子を発案。明るく、クリエイティブな性格。

- ・ 塩田（30代）：汐の秘書。真面目で心配性。汐の突飛なアイデアにいつも振り回されるが、実は大のお菓子好き。

シーン：汐製菓会社オフィス

（オフィス内。汐が机に向かい、考え込んでいる。塩田はその前に立って、メモを取りながら汐を見守る。）

汐

（頭を抱えながら）新作のお菓子、なんかインパクトが欲しいんだよなあ…。何かこう、誰も見たことがないようなものが作れないものか。

塩田

（控えめに）社長、前回の「カレー味マシユマロ」もなかなかのインパクトがありました。少しニツチ過ぎたかもしれませんが…。

汐

（突然立ち上がって）そうだ！きりたんぼだ！

塩田

（驚いて）きりたんぼですか？

汐

そう、きりたんぼの食感と味を持つマシユマロ！これだよ、次の大ヒット商品は！

塩田

(心配そうに) え、ええと…それは…果たして市場に受け入れられるのでしょうか…。

汐

(興奮気味に) もちろんさ！これぞ日本と洋菓子の融合だよ！和と洋の絶妙なハーモニー、これをマシユマロで表現するんだ！全世界が驚くぞ！

塩田

(ため息をつきながら) …承知しました。でも、試作を作る際には、もう少し慎重に…。(心の中で) でも…おいしいかも…きりたんぼマシユマロ…。

シーン②：試作キッチン

(汐と塩田が試作キッチンにいる。研究員が真剣な顔でマシユマロの材料を混ぜている。)

研究員

（集中して）社長、きりたんぽのような食感を再現するために、餅粉をベースにした新しいレシピを試しています。

汐

（興奮して）素晴らしい！まさにそれだ、全く新しいマシユマロを作るんだ！

塩田

（不安そうに）でも、あの、きりたんぽってマシユマロとはかなり違う食感ですけど…。

汐

（自信満々に）違いがあるからこそ面白いんだよ、塩田くん！この違いこそが新たな市場を開拓する鍵なんだ！

（研究員が完成した試作品を差し出す。）

研究員

社長、こちらがきりたんぽ風マシユマロの第一号です。

汐

（試食して）…うん、これはすごい。もっちりしていて、かつふんわりしてる。これは…革命的だ！

塩田

（恐る恐る試食して）…確かに、これは…お、おもしろい味です…。

汐

（得意げに）ほら見たことか！これで国内外の人々を虜にすること間違いなしだ！

塩田

（内心で）これは…果たしてウケるのかしら…。

シーン③：市場での反応

（イベント会場。汐製菓のブースがあり、新商品「きりたんぽマシユマロ」を試食できる。多くの人々が列を作っている。）

塩田

（会場を見渡しながら）すごい行列ですね…でも、これって皆さん本当に食べたくて並んでるんでしょうか…。

汐

（自信満々に）もちろんさ！この革命的な新商品に、みんな興味津々なんだよ！

（数人の外国人観光客が試食を始める。）

外国人A

（日本語で）え、これマシユマロですか？ちょっと…重い感じがしますね。

外国人 ㊦

（日本語で）うん、でもこのもちもち感は…なんかハマるかも。

外国人 ㊦

（日本語で）意外においしい！お土産に買って帰ろうかな！

塩田

（驚いて）好評…なんですね？まさか、本当に…。

汐

（にやりと笑って）だから言っただろ？面白いものは人を引きつけるんだよ、塩田くん！

塩田

（感心して）社長の発想、やっぱり侮れませぬ…私ももっと柔軟な考え方をしなければ。

シーン4：エピソード

（汐製菓会社のオフィス。汐と塩田が試作の成功を祝いながら、次の新商品について話している。）

汐

（ワクワクしながら）さて、次は何を作ろうか。世界を驚かせる新商品…やっぱり温泉まんじゅう風味のガムとか？

塩田

（苦笑いしながら）社長、少し休んでから考えましょう。私は…少し甘いものが食べたくありません。

汐

（にっこりと）わかったよ、塩田くん。次は一緒に何か面白いものを考えよう！

塩田

（微笑んで）楽しみにしています、社長！

（二人はオフィスを後にし、楽しそうに話しながら出ていく。）

ナレーション

汐製菓の新作は、今日もまた新しい冒険の
一歩を踏み出しました。次なる挑戦は何
か？それは、次回のお楽しみです！

終わり